2022 年度における業務実績の概要

※◆は重点的計画、◇は重点的計画でない項番。

県 立 大 学

教　育

◆項番１　新教養教育カリキュラム「県大世界あいち学」による教育を実施

・1 年次必修とした「多文化社会への招待」、「データサイエンスへの招待」及び、選択科目である「県大エッセンシャル」を全学部連携型授業として開講

・複数学部連携型授業として、「グローバル社会の諸問題」、「エリアスタディーズ総論」、「いのちと防災の科学」を開講

【指標】(全学部連携型授業を１科目、複数学部連携型授業を４科目開講する。)

⇒全学部連携型授業３科目、複数学部連携型授業３科目を開講

自己評価：Ⅳ

◇項番２　データサイエンス等に関する教育を推進

・1 年次必修とした「データサイエンスへの招待」を継続して開講するとともに、「データサイエンスへの招待-実践編」を新規開講

・「データサイエンスへの招待」が、文部科学省「数理・データサイエンス・AI 教育認定プログラム(リテラシーレベル)」に認定

自己評価：Ⅳ

◇項番４　専門教育における効果的な教育カリキュラムの改善

・外国語学部において、「スペイン語圏専攻」の「スペイン語・ポルトガル語圏専攻」への改編を含む、新教育プログラム開講に向けたカリキュラム改正を実施(2023 年４月開講)

・教育福祉学部において、他学部・他学科連携による横断カリキュラムと、地域での自主的な正課外活動も盛り込んだ「愛知地域共生教育プログラム」の開講に向けた履修規程の改定や修了方法を決定（2023 年４月開講）

・看護学部において、文部科学省大学改革推進補助金によりシミュレーター機器を導入し、実践的な看護教育を実施

自己評価：Ⅳ

◇項番５　大学院教育におけるコース、カリキュラムの見直し

・国際文化研究科において、「コミュニティ通訳学コース」を開設し、６名の履修者を得るとともに、人間発達学研究科および看護学研究科と連携した授業運営を実施

自己評価：Ⅳ

研　究

◆項番 18　学部横断型の学際的研究や、産業界等との連携による研究を推進

・学長特別研究費「学部間連携・産学公連携研究」で、４件の研究を実施（分野横断的共同研究（１件)、他大学や他研究機関との共同研究（３件))

・学長特別研究費「地域課題研究」で、1 件の研究を実施

【指標】（学長特別教員研究費「複数学部にまたがる研究」または「共同研究(他学部・産学公)」を１件以上採択)

⇒学長特別研究費「学部間連携・産学公連携研究」を４件採択

自己評価：Ⅳ

◆項番 19　外部資金の獲得に向けた取組の推進

・研究推進局において、研究所等に対する外部資金 13 件の受け入れを実施

・３研究所・１プロジェクトチームが学内予算の配分を受けることなく運営

・2023 年度科学研究費補助金について、申請に係る講習会、申請書の添削及び個別 Web 面談を実施し、74 件の新規応募をサポート（2021 年度の新規応募：63 件)

【指標】(研究に係る外部資金の採択・受入件数を、第三期中期計画最終年度までに、第二期最終年度から 10%以上増加させる。)

⇒2022 年度採択・受入件数 216 件（2018 年度：195 件から 10.7%増加)

自己評価：Ⅳ

地域連携・貢献

◆項番 22　県等との意見交換会を通して、地域課題への対応に向けた取組の推進

・愛知県福祉局との連携により、「愛知シルバーカレッジ専門コース」において新テーマ『地域における子ども支援』を開設

・愛知県教育委員会との連携により、「あいちラーニング推進事業」へ協力し、県立昭和高校と授業改善や ICT 活用に関する連携を実施

・長久手市教育委員会及び日進市教育委員会とスクールソーシャルワーカー（SSW）の課題に関する意見交換会を行い、それぞれ連携に関する協定を締結

・知立市との意見交換及び課題を聴く会を実施し、教員・学生の教育研究活動を支援するための包括連携協定を締結

【指標】(愛知県の関連部署との意見交換会を１回以上、県との共催事業・貢献活動を１件以上)

⇒意見交換会を６回、共催事業・貢献活動を１件実施

自己評価：Ⅳ

2022 年度における業務実績の概要

※◆は重点的計画、◇は重点的計画でない項番。

芸 術 大 学

教　育

◆項番 30　アーティスト・イン・レジデンスによる国際的なアーティスト・研究者との交流などを推進

・コロナウイルス感染拡大に伴い、海外アーティストを招聘してのアーティスト・イン・レジデンス事業の中止や延期が相次ぐ中、新たな取組として、海外のアーティストのリモートによる遠隔指示によって、本学の学生たちが代理で作品制作を行う「リモート・アーティストインレジデンス（AIR）・プロジェクト」を実施

【指標】（アーティスト・イン・レジデンス及び外国人客員教員による事業を毎年４件以上実施）

⇒アーティスト・イン・レジデンス事業３件、外国人客員教員事業４件を実施

自己評価：Ⅳ

◆項番 33　特色ある教育研究の展開に向けた専攻・カリキュラムの見直しとＦＤ活動による教育力の向上

・授業アンケートの結果を踏まえ、彫刻専攻においてカリキュラムポリシーを改変し、2024 年度の新彫刻棟での授業開始に合わせてカリキュラム再編を行うことを決定

【指標】（2022 年度に美術学部の専攻・領域を見直し、新たにメディア映像専攻を開設）

⇒予定通り、2022 年度にメディア映像専攻を開設

自己評価：Ⅲ

◆項番 36　学生の将来目標・設計を啓発し、専門を生かせるキャリア支援を推進

・新たな就職支援の取組として、マイナビ主催「NHK 企画力養成セミナー」に本学も参加しワークショップ形式の学内セミナーを開催、最終日には企画書を完成させ NHK 企画アイデアコンテストに応募し、芸術大学では唯一本学学生が佳作に選出

【指標】（キャリアサポートガイダンスを毎年 25 件以上実施）

⇒キャリアサポートガイダンスを 29 回実施

自己評価：Ⅳ

研　究

◆項番 39　教員の芸術活動・研究の推進とその成果の地域還元

・芸術講座「『原爆の図』―よみがえる想い」は、愛知県立大学人間の尊厳と平和のための人文社会研究所の協力を得て、県立大学を主会場に、オンライン受講を併用して開催

・弦楽器コースでは花崎教授プロデュースによる「室内楽の饗宴」シリーズを立ち上げ

・展覧会・演奏会の入場制限の緩和の他、展覧会をオープンキャンパスや芸大祭等に合わせる等の工夫により、入館者数・観客数前年度比増を実現

自己評価：Ⅳ

◆項番 40　研究支援体制の整備、企業等との連携強化、外部資金の獲得増に向けた取組

・科研費・助成金に関する情報提供を行ったほか（計 59 回）、申請にあたって外部委託の面談や申請書添削を導入し、採択に向けての支援と環境整備を実施

・科学研究費助成事業基盤研究Ａに採択された県立大学との連携研究「データサイエンスによる紙の道の解明」を４月より開始（2026 年度まで）

・文化財保存修復研究所の調査部門において、名古屋市美術館の所蔵作品における劣化状況の調査を基に猛獣画廊壁画修復プロジェクトの受託研究を実施

【指標】（科学研究費及びその他の助成金を毎年 20 件以上申請）

⇒申請件数：31 件（うち、採択 13 件）

自己評価：Ⅳ

地域連携・貢献

◇項番 41　愛知県や他の自治体、他大学、産業界、文化施設等との多様な連携を推進

・４月に名古屋工業大学と包括的連携に関する協定書を締結、「アートフルキャンパス構想」を共創し、両大学学生が共同でアート作品を制作するプロジェクトを実施したほか、名古屋工業大学の教職員や学生を対象とし本学教員による授業等を実施

・中部圏のイノベーションハブとして中部経済連合会と名古屋市が創設したナゴヤイノベーターズガレージと連携し、ナゴヤイノベーターズガレージ賞を創設し施設内に卒業生等の作品を展示する共同事業を実施したほか、受託事業として演奏会２件を実施

・2021 年度より引き続き、尾張旭市から三郷駅前まちづくりデザイン検討支援事業を受託

・展覧会２件が国際芸術祭「あいち２０２２」パートナーシップ事業に採択

自己評価：Ⅳ

その他

◆項番 45　大学 Web サイトなど情報発信ツールの充実、芸大のブランド・知名度向上

・大学 Web サイトの全面リニューアルを実施し３月に公開

・ジブリパークの開園に合わせて、リニモ沿線の芸大敷地内に大型看板を設置したほか、リニモ沿線８施設紹介動画を制作して藤が丘駅のデジタルサイネージにて放映し広報を推進

・地形劇場の観覧席整備のためクラウドファンディングを実施し、154 名（企業・団体含む）から 780 万円の寄付を集め、目標金額（300 万円）を大きく上回って達成

【指標】（大学 Web サイト・SNS のアクセス数を第三期最終年度に 150 万件以上とする）

⇒アクセス数 1,267,495 件（大学 Web サイト、Facebook、Twitter の合計）

自己評価：Ⅳ

2022 年度における業務実績の概要

法 人 運 営

法人・大学運営

※◆は重点的計画の項番。

◆項番 46　法人・大学の運営体制の充実と効果的・効率的な法人・大学運営の推進

・トップマネジメント事業として、県政 150 周年記念連携事業６件を実施

【指標】(第三期最終年度までに理事長・学長によるトップマネジメント事業費を業務費総額の１%以上確保)

⇒2023 年度のトップマネジメント事業費予算額：14,285 千円（業務費総額の 0.76%）

自己評価：Ⅲ

◆項番 48　様々な連携による大学の魅力づくりの推進

・新たな連携事業として、以下の取組を実施

・愛知県スタートアップ推進課と連携してフランスの高等教育機関から研究者等を招聘し、「スタートアップ国際シンポジウム」を開催したほか、中部経済連合会と意見交換を実施

・愛知県農業総合試験場と連携して「A-A-A スタートアップシンポジウム～愛知県立大学・愛知県立芸術大学・愛知県農業総合試験場によるテック・アート・アグリの DX」を開催

・両大学の学生を対象にアントレプレナーシップ教育の専門家を招聘し特別集中授業を実施

・ジブリパーク開園に合わせて、２大学で連携しリニモ沿線８施設紹介動画を制作、公開

・2021 年度から継続して、東海地区の大学コンソーシアムによる起業家育成プロジェクト（Tongali）に参加し、アントレプレナーシップ教育を実施

【指標】（２大学連携事業を検討・推進するための会議を毎年２回以上開催）

⇒２大学連携推進会議を２回開催

自己評価：Ⅳ

人材の確保・育成

◆項番 52　大学を支える事務職員の育成

・他機関（愛知県、名古屋大学、文部科学省、公立大学協会）へ職員４名を派遣

【指標】（第三期最終年度までに海外派遣及び他機関への派遣研修に従事した法人固有職員の割合を 30%以上にする）

⇒2022 年度末現在の割合：29.3%

自己評価：Ⅲ

その他

◆項番 59　良好で安全・安心な教育研究環境の維持と情報基盤ネットワークの強化

・施設・設備の点検を適宜行い、県大２キャンパス自動火災報知設備及び長久手キャンパス中央監視装置の更新、守山キャンパス管理棟及び芸術大学新講義棟大講義室 LED 照明化等を実施

・新設授業科目で利用するための無線 LAN アクセスポイントを整備したほか、情報セキュリティ強化のためワンタイムパスワード認証を加えた二段階認証を導入

自己評価：Ⅲ

自己評価結果の概要

2022年度実施項目

Ⅰ 実施していない	Ⅱ 十分には実施していない	Ⅲ 十分に実施している	Ⅳ 上回って実施している	
未着手	着手はしたが 目標に到達していない	目標を達成している	目標を上回って 実施している	
0 項目	0 項目	48 項目 （13 項目）	14 項目 （10 項目）	
0 項目	0 項目	61 項目	24 項目	※2
0%	0%	71.8%	28.2%	

※　（　　）内は重点的計画数

※2　重点的計画考慮後の合計

中期計画の大項目・中項目	項目数	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ
1　教育研究等の質の向上	45 (19)	0	0	32 (10)	13 (9)
(1)　県大	29 (9)	0	0	22 (5)	7 (4)
1-1　教育	17 (3)	0	0	13 (2)	4 (1)
1-2　研究	4 (2)	0	0	2 (0)	2 (2)
1-3　地域連携・貢献	4 (2)	0	0	3 (1)	1 (1)
1-4　その他	4 (2)	0	0	4 (2)	0
(2)　芸大	16 (10)	0	0	10 (5)	6 (5)
1-1　教育	9 (5)	0	0	7 (3)	2 (2)
1-2　研究	2 (2)	0	0	0	2 (2)
1-3　地域連携・貢献	3 (2)	0	0	2 (2)	1 (0)
1-4　その他	2 (1)	0	0	1 (0)	1 (1)
2　業務運営の改善	9 (3)	0	0	8 (2)	1 (1)
3　財務内容の改善	2 (0)	0	0	2 (0)	0
4　自己点検・評価及び情報の提供	2 (0)	0	0	2 (0)	0
5　その他業務運営	4 (1)	0	0	4 (1)	0
合　　計	62 (23)	0	0	48 (13)	14 (10)
重点的計画考慮後の合計	85	0	0	61	24

※（　　）内は重点的計画数